

第2章 財政収支の見通し

○ 一般会計財政収支の見通し

計画期間中における一般会計の財政収支は、過去の実績や今後の経済状況などを考慮して推計値を算出し、下記表のように見込みました。

歳入については、米国の追加利上げに伴う金融市場の混乱や中国の景気減速などのリスクがあるものの、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催までは経済成長が見込めるのではないかと考えられています。

したがって、個人市民税などを含めた市税収入については、若干ではあるものの増収を見込むことができます。

一方、歳出については、社会保障費など扶助費の増加が引き続き見込まれているため、義務的経費は今後も増加傾向にあります。

また、介護保険事業などの保険給付費の大幅な増加が見込まれることから、これらの特別会計への繰出金が年々増加していくことが予測されます。

さらに、市では、ますます複雑化、多様化する行政課題が山積しており、防災・減災対策などに係る費用や中長期的な課題である公共施設の再編、社会基盤施設の維持・更新などに伴う経費の増大など、新たな課題に対応していくことで、今後、財政運営の厳しさが増していくものと想定されます。

そのため、予算編成にあたっては、歳入面においては、新たな国県補助金などの獲得や適正な受益者負担のあり方などを意識し、財源の確保に取り組んでいきます。

また、歳出面においては、個々の施策ごとにその必要性、優先性を精査するとともに、配分枠の見直しなどにより事業費の削減に努めていきます。

財政収支の見通し(一般会計)

(百万円)

区 分		金額			
		29年度	30年度	31年度	合計
歳入	市 税	35,675	35,721	35,926	107,322
	国・県支出金	9,924	10,273	10,209	30,406
	市 債	2,601	2,125	1,845	6,571
	そ の 他	11,651	11,382	12,072	35,105
	合 計	59,851	59,501	60,052	179,404
歳出	人 件 費	11,574	12,353	12,102	36,029
	扶 助 費	12,344	12,736	12,968	38,048
	公 債 費	3,910	4,008	4,052	11,970
	繰 出 金	9,398	9,717	10,175	29,290
	そ の 他	22,625	20,687	20,755	64,067
	合 計	59,851	59,501	60,052	179,404